



# 東洋産業だより

Vol. 190  
2019年11月号

11月になり、秋の深まりを感じられる季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

この季節は、暖かい時期に活動していた虫の多くが越冬の準備に入ります。これらの虫には、人の生活圏を越冬場所として侵入してくる虫がいて、例えば悪臭を放ち、密集することによって気持ち悪がられるカメムシ類はその一つです。

寒いところが苦手なカメムシ類は、本来岩の裂け目、樹皮下落葉・枯草のなかなどの隙間を好んで越冬する虫たちです。そのため、気温が下がる秋になると日当たりのよい建物の外壁に飛来して止まり、雨風をしのげて安心できる窓サッシの隙間などに潜り、暖かい屋内へ侵入してきます。

カメムシにはたくさん種類がいて生態は様々。中でも問題となることが多い種として、クサギカメムシやスコットカメムシなどがいます。その対策については、残念ながら、カメムシ類の対策として最も重要なことは「屋内

に入れない」ことです。

例えば、カメムシ類が狭い場所に潜む性質を利用し、ベニヤ板などでわざと隙間のあるカメムシのおうちを作り、これを彼らがよくきそうな建物の屋上や壁に置いて捕まえて捕殺する方法、および窓サッシなどのカメムシ類の侵入経路に対して、あらかじめ殺虫剤を撒いて殺虫や忌避させる対策などがあります。

表1はカメムシ類が飛来する前に窓枠に殺虫剤を散布し、飛来終了後、室内に殺虫剤（ペルメトリン蒸散剤）を処理してから落下した数を、何もしない場所と比較したものです。この結果から、カメムシが侵入してくる場所を予測し、やってくる前に殺虫剤を散布することが侵入防止対策として重要であることが分かります。

このほかにもカメムシ対策にはいろいろな方法があります。お困りの場合は、ぜひ一度ご相談ください。

表1. 対象カメムシの薬剤散布処理による侵入阻止効果 (渡辺, 1995: 家屋害虫Vol. 17, 119-130.)

建屋のつくり (対象カメムシ種)	散布薬剤有効成分	落下虫数		侵入阻止率 (%)
		実験区	対照区	
鉄筋コンクリート、アルミサッシ (クサギカメムシ)	シフェノリン	0.0	13.0	100
鉄筋コンクリート、アルミサッシ (クサギカメムシ)	シラフルオフェン	1.3	52.1	97.8
鉄筋コンクリート、アルミサッシ (クサギカメムシ)	シフェノリン	2.1	48.5	97.3
木造2階、アルミサッシ (クサギカメムシ)	シフェノリン	2.0	53.0	96.2
木造平屋、アルミサッシ (スコットカメムシ)	シフェノリン	12.0	183.5	93.5
木造2階、木造二重サッシ (スコットカメムシ)	シラフルオフェン	2.0	33.0	94.0
木造2階、木造二重サッシ (スコットカメムシ)	シフェノリン	4.0	31.5	87.3

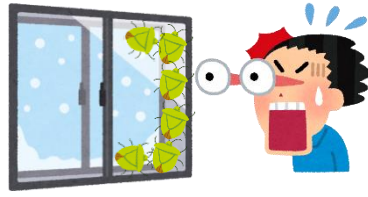


図1. クサギカメムシ成虫

**東洋産業株式会社**  
本社 岡山市北区新屋敷町3-19-20  
TEL 086-2241-8080  
FAX 086-241-8094  
拠点 大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島  
高松・松山・金沢

## 今月の豆知識：カメムシのにおいはなし

カメムシはクさい虫というイメージがあると思います。この悪臭の原因物質は「アルデヒド化合物」です。人間にとってアルデヒド類は高濃度になると有毒になるものが多いことから、人やその祖先は遺伝的にカメムシの臭いを忌避する機構が発達し、アルデヒド系化合物によってカメムシ類の臭いを嫌な臭いだと感じるようになったという考えがあります。ちなみに、カメムシといわれるなかまは、異翅亜目というグループに属し、その全体からすれば悪臭を放つ種は一部です。

このカメムシの臭いは、手や洋服についた場合、洗ってもなかなか消すことができません。なぜなら、カメムシの臭い成分のアルデヒドには「揮発性」と「親油性」を持ち、普通の石鹸による手洗いでは溶けてくれないからです。このアルデヒドの化学的な性質である揮発性と親油性には、熱によって臭いを飛ばすことや油に溶けやすいことが特徴として挙げられます。つまり、洋服などについた臭いはアイロンがけなど、高温にさらすことによって臭いを飛ばすという対策をとることができ、手についた臭いは油や界面活性剤が多く含まれる食器用洗剤を用いて消臭することができます。ただし、これらの方法は高温だったり手の脂も溶解することから、やけどや肌荒れの危険性もありますので、気を付けてください。